

住む人のライフスタイルに合わせた「畳の空間」を提供する
超薄型“置き畳”の製造技術の開発



代表取締役 大野 安律

【その他の製造業】 大野製畳株式会社

〒501-6087 羽島郡笠松町大池町34-1

TEL.058-388-2346 FAX.058-388-2385

設立/昭和35年12月2日 資本金/1,000万円 従業員数/11人

https://www.ohnoseijyo.com e-mail/oonotatami@wine.ocn.ne.jp

企業概要

現代の住宅に最適な超薄型置き畳を製造し 新しい畳の楽しみ方を提案

概要

現代のライフスタイルに適した畳の空間を提供する新商品として、新たな接着方式による超薄型畳の製造技術を確立

本事業への取り組みの経緯

戸建て住宅においては、畳の部屋が年々少なくなっており、畳の使用量は減少傾向にある。しかし、畳自体のニーズはまだまだ残っており、フローリングの上に置いて簡単に畳を敷ける「置き畳」を求める声が高まっていた。

と同時に、近年は建物のバリアフリー化が進み、戸建て住宅も玄関からフロアがフルフラットにつながる家を好まれるようになったため、住宅を建てるハウスメーカー等も、施工をスムーズにするために、フローリングと同じ厚みで収まりのいい畳が欲しいという要望が上がるようになった。本事業では、そうした時代ニーズに対応すべく、超薄型の置き畳を製造できる技術の開発を目指した。

事業概要

従来、畳の製造技術は、畳床に畳表をタッカー（縫い針）で縫着する縫製方式だったが、本事業ではその脱却を図り、新たにボンドで圧着させる接着方式を採用。置き畳で一般的な900mm幅だけでなく、通常の畳サイズも製造できるよう、2m幅までつくることができる特別な仕様の機械を導入し、超薄型畳の製造技術を確立した。



導入した設備



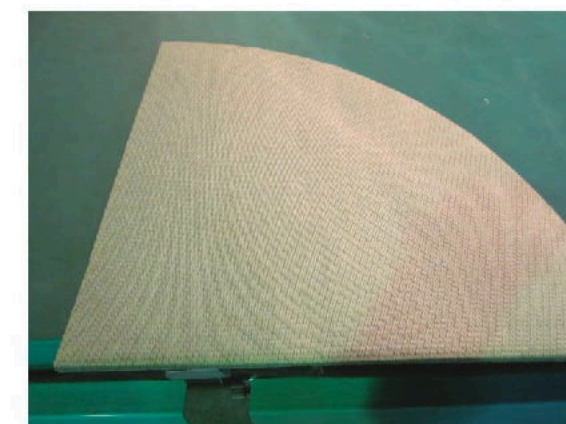
形状を選ばずフリーサイズの畳を製造可能

事業成果

今回の機械導入で、熱圧着による接合方式により、畳表のより確実な接着が実現した。またこれまではタッカーで畳表を留めていたが、超薄型畳では畳床が薄いため、針の浮き上がりに懸念があった。しかし、縫い針のない接合方式により安全性が確保され、安心・安全な床材として畳の製造を行うことができるようになった。本事業で製造可能となった畳は、どんな厚みのベースにも畳表を巻くことができ、貼りが良く型くずれしないのも大きな特徴。形状も選ばないため、4分の1R形状といったフリーサイズ形状の畳も製造することが可能となった。製造時間についても、従来は1枚当たり40分かかっていたものが、23分まで短縮でき、生産性の向上を図ることができた。



1/4R形状の畳を試作



試作した超薄型置き畳

事業の活用状況 (補助事業実施後の取り組み)

本事業において導入した機械装置を使用し、さらにサイズ・カラーバリエーション等の展開や、ニーズに合わせた工夫を加えた超薄型置き畳の製作・販売ができるよう、営業活動に努めている。営業展開の結果、インテリア関連の企業では、カラーバリエーションだけでなく香りを加えることはできないかなど、新たな要望も上がっており、今後も工夫を凝らした付加価値の追求と販路拡大に注力していく。